

•Tackle Guide
 クロムツはフラッシュャーサビキの7~8本バリ仕掛け。チモトに回転ビーズのある仕掛けだとサバが掛かってモレのリスクが減るのでおすすめ。オニカサゴはテンピを使用した2~3本バリ仕掛けて、水中ランプなどの集客を付けるのも一手だが、サメやフグがいる場合は外すようにしましょう。オモリはどちらも150号でOK。

クとカタクチイワシを用意してきた。それらに先ほどのムツ狙いで釣れたサバを切り身にして抱き合わせて使用した。釣り方は常に底ダチを確認して仕掛けが海底から50センチ前後をユラユラと漂うように心がけ、時折誘いを入れてやる。

チ前後をユラユラと漂うように心がけ、時折誘いを入れてやる。コツコツとかゴツゴツとした乾いたアタリが竿先に出たら誘いを止めて食い込みをうながし、ゆっくりと聞き合わせをしたときにグググと抵抗したら大きく合わせる。初めの合わせで慌てて合わせるとスッポ抜けたり、合わせないで巻き上げるとハリがアゴを貫通せずにバラシの原因となったりする。また強引な巻き上げではハリ穴が広がってしまい、取り込みの際に外れてしまうので注意しよう。



▲南房のオニカサゴは1キロオーバーの良型も珍しくない
 ▼早朝に狙うクロムツは30センチ級の良型主体

「鈴木さん、取材で何か行きたい釣り物ってありますか。」と私を担当している編集部の内山記者が訊ねてきたので、「オニカサゴ」と答えたところ、意外にもあっさりとう了承されてしまった。

内山記者から指定された船は南房江見太夫崎の鈴丸。さっそく船長に連絡を入れると、「夜明け前にクロムツをやった後にオニカサゴをやりたいよ」ということで、2月23日に釣友3人と出かけてきた。

川沖に30分ほど到着すると、「水深は85メートルです。どうぞ」と鈴木武男船長の合図で最初のターゲットであるクロムツ釣りがスタート。

最初の流しでは船中ノーマットに終わったものの、次の流しでは私が海底からデッドスローで巻き上げていると4メートル付近でガタガタとクロムツ特有の明確なアタリが伝わってきた。

巻き上げ動作を止めてその位置でゆっくりと竿を上下すると、さらに魚信が加わったところで巻き上げ開始。

一番上と2番目のハリに30センチほどのクロムツが掛かって上がってきたことから、

▼エサはサバやイカタンの切り身が定番



怒りの連続ショット
 さっそく私の竿先にアタリがきたので一呼吸入れた後に合わせを入れるとハリ掛かり。激しく抵抗してきたところで巻き上げを開始する。幸先よくオニカサゴのお出ましかと思いきや、上がったのはマトウタイ。それを釣友の米光さんに持ってもらう写真に収める。

間を置かずに再びアタリがきたのだが、今度は初めから激しくたくやうな動きを見せ、かなり重い。

オニカサゴではなさそうだが、魚の正体はなんだろうと思いつつ巻き上げを開始。海面にポツカリと浮かび上がったのは1.5キロのカンコと小型のオニカサゴの一荷だった。

これは渡辺さんに持ってもらう写真撮りをしていると、「そっちの竿がアタってるよ」

と船長が叫んだ。なんと渡辺さんの置き竿に何かヒットしたらしく、慌てて席に戻って巻き上げると800グラムとリリースサイズのオニカサゴが一荷で掛かっていた。同じタイミングで隣君が700グラムのオニカサゴをヒットさせて無事に取り込む。このあとさらに隣君が800グラムほどのカンコを取り込むと、

「今度はかなりよさそうですよ」と巻き上げを開始したのは渡辺さんで、1.2キロのオニカサゴを釣り上げた。

エサ付けを終え仕掛けを入れ直した渡辺さんにまたもヒット。

「重たーい」と竿を満月に曲げている。

サメでも掛かったのかと思ったが、上がったのは2キロと1.2キロのカンコの一荷。この調子でバンバン釣れる

船宿information
 南房江見太夫崎
鈴丸
 ☎090-2525-6003
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=乗合料金は確認(水付き)。エサは各自用意
 ▶備考=予約乗合、集合時間確認。ほかハタ五日、ヒラメも出船

鈴木 武男船長

かと思いきやその後は潮が全く動かなくなり、しばらく一服状態に。

1時間半ほどたつて再び潮が動き始めると渡辺さんが1キロほどのオニカサゴを連発し、隣君は本日最大となる1.5キロのオニカサゴを釣り上げて気を吐く。

私はと言えばキントキ2連発の後にはアヤマカサゴの4連発とすつかり大型のオニカサゴからの見放された状態で沖揚がりの11時となった。

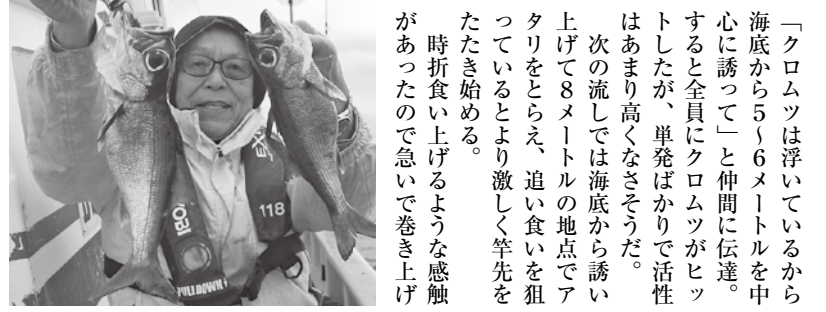
オニカサゴの釣果はキープサイズが一人1~5尾に多彩なゲストが釣れてクーラーは華やかだった。

やっぱりこの釣りは楽しいなあとと思いつつ帰路についた。

◎南房江見太夫崎発↓鴨川→大海沖 本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshitaka Suzuki

うまい魚をまとめてゲット

クロムツ&オニカサゴリレー



「クロムツは浮いているから海底から5~6メートルを中心に誘って」と仲間伝達。すると全員にクロムツがヒットしたが、単発ばかりで活性はあまり高くなさそう。

次の流しでは海底から誘い上げて8メートルの地点でアタリをとらえ、追い食いを狙っているときより激しく竿先をたたき始める。

時折食い上げるような感触があったので急いで巻き上げ

を開始すると、思ったとおり上から2番目のハリにクロムツが掛かっていたものの、下のハリにはサバが3尾ヒットしていた。

その後まったく潮が動かないのが災いしてかポツリポツリの展開が続き、「反応がなくなっちゃったのでオニカサゴに行きましよう」と言う船長の言葉で仕掛けをチェンジ。

クロムツの釣果は一人4~5尾と振るわなかったものの、第2ラウンドのオニカサゴに期待だ。

次のポイントは大浦沖の水深90メートル前後。オニカサゴの魅力は、水圧の変化に強く海面まで元氣よく抵抗する釣り味と、なんといっても食味のよいこと。

定番の鍋物や煮付けはもちろんのこと3日ほど寝かせた刺身は甘みが増して絶品。わ

知得! Tips and Tricks
オニカサゴの持ち方

オニカサゴのヒレには毒があるので、刺されないためには下アゴを親指で押さえるいわゆるバス持ちがよい。ただサラサラとした細かい歯が密に生えているので素手だとヤスリでこすったような傷がつく。ハリを外すときは親指に指サックをすするとしっかり押さえられて怪我もせず安心だ。

▲タックルケースに指サックを1~2個入れておこう